

# アイリスLetter

## 保護者の皆様へ



2016年9月30日発行

第5号

広島女学院中学高等学校

広島女学院は10月1日に、130歳の誕生日を迎えました。学院ではこれを記念して9月24日に、100周年を記念して建てられたゲンスホールで、講演会・オルガン演奏会を開催しました。講演は院長である湊先生によって「女子教育が世界を変える」と題して、明治期から今日まで女子教育に貢献してきた人々やその成果について、またこれからの女子教育が目指すものとして、世界平和への貢献、発展途上国支援など求められる場所や立場に関心を持ち出ていく働き、そして就職という観点に留まらず女性の生涯を通して築き上げてゆくライフキャリアの形成について力強く語られました。続くパイプオルガンコンサートは、この日のために東京から駆けつけてくださった、湊先生のご長女の内海恵子さんとその御嬢さんの彩花さんによるものでした。教会オルガニスト、また演奏家として活躍しておられ、CDもリリースしておられる恵子さんと、現在音楽大学在学中で教会でのオルガン奏楽も担当しながらまさにこれからが期待される彩花さんは、手足すべてを使って演奏するオルガン演奏の実況映像も交えて、バッハを始めとする独奏曲と、親子によるオルガン連弾曲も披露してくださいました。親子3代、各々の世代による、また信仰を土台としたキリスト教教育を受けて育てこられた3人の女性によるステージは、湊先生の御講演の中の「生涯にわたる女性のライフキャリア」という一つの主題を象徴的に表しているようで大変興味深いものでした。

この前日には、中高の生徒全員を対象にこのお二人による創立130周年記念オルガンコンサートを開いて頂きました。いつもホール礼拝の時には讃美歌伴奏や入退堂のオルガン奏楽があり身近な楽器ではありますが、オルガン音楽を中心にじっくり鑑賞する機会は稀なので、皆でその響きを堪能し豊かな時を持つことができました。普段、奏楽して下さっている中高の先生方が2段の手鍵盤と足鍵盤をどのように使って弾いておられるのか、そのご苦労も想像できたことでしょう。

さて、10月を迎え高2沖縄修学旅行、中3長崎研修旅行、中1バイブルデイキャンプ、遠足等があります。今年は台風の発生も多く行事への影響が心配される面もありますが、各行事を通して生徒たちが豊かな経験をし、成長してくれることを期待しています。また、PTAにおかれては11月のバザーを控えて、様々な準備に忙しくなってくる時期であると思いますが、どうぞよろしくお願いたします。その中であって保護者の皆様同士の豊かな交流がなされる場となりますことを願っております。

### 聖書の言葉

「主ご自身が立ててくださるのでなければ家を建てる人の労苦はむなし。」

旧約聖書詩篇 127 編 1 節

(校長)

## 中村 哲さん講演会

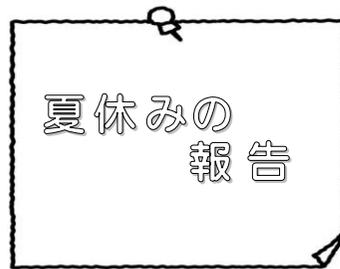
9月7日(水)、6・7時間目に国語科主催の文化講演会がありました。2年に一度高校生を対象に、著名な人を招いて講演をしていただく行事です。今年はペシャワール会(福岡にあるアフガニスタンへの援助NGO)の現地代表をしておられる中村哲(なかむらてつ)医師をお招きしました。西南学院中高のご出身のクリスチャンでいらっしゃることも、キリスト教強調週間の講師として来ていただきたいような方でしたが、1年間の多くをアフガニスタンで活動しておられるため、これまでかいませんでした。中村先生は卓越した文章で多くの本を出版されています。「花と龍」「麦と兵隊」などで知られる作家の火野葦平は先生の伯父にあたります。)国語科では1学期の終わりから著作の紹介、現地での活動の様子を伝えるDVDを授業でみせるなど、準備をしてきました。当日は映像を示しながら、アフガニスタンについてのこの40年間の歴史的、地理的状況のお話から始まりました。生徒・教員ともども、医療に恵まれない地域での医者としての献身的なお働きと、紛争の続くアフガニスタンに生きる人々の苦境に次第に引き込まれていきました。



中村医師が、井戸を掘り用水路を拓くことを医者であることより優先するのは、命を救うためには何よりも水、そして水がもたらす農地である、との確信からでした。仕事をして「食べていける」土地こそが人々を故郷につなぎ止め難民化を食い止める唯一の方法なのだとされました。未曾有の大干魃のため果てしなく続く乾いた土地。そこに完成した水路に大河から引いた水がはじめて流れていく映像は感動的で、どこまでも現地の人とともに働く先生の姿勢が強く印象に残りました。そしてこの偉

大な事業が全て日本の市民からの募金で成り立っていると知ることによって日本とアフガニスタンのつながりを実感しました。大きな機械を持って行って近代的な工法で土木工事をするのではなく、現地のやり方を尊重し、日本の江戸時代の工法を研究して現地に生かしておられるのも興味深いことでした。お話が聞けなかった中学生も見られるように、中村先生の活動のパネル展示も行いました。先生が座右の銘を書いてくださった色紙は高校2階廊下に展示してあります。また、HPにも記事がありますのでそちらもご覧ください。

(国語科)



## 8・6 平和祈念式・平和記念礼拝

生徒・教職員350余名が原爆の犠牲となった体験が本校の平和教育の原点となっています。

8月6日(土)午前10時より、ご遺族の方をお迎えして平和祈念式がありました。式辞は湊院長、追悼のこ



とは同窓会長の大矢みどりさん、中学礼拝委員が6月の平和を祈る週に中学全校生徒



で折った千羽鶴を捧げ、高校茶道部が献茶をし、中学YWCA部が献花でハンドベルを演奏しました。

同日午後1時30分からは、ゲーンズホールで、中1、中3、高2の生徒が出席し、多くの来訪者の方々と共に、岡村悦弥先生(日本バプテスト連盟牧師)をお迎えして平和記念礼拝をまもりました。

岡村先生は、16歳の時、動員先の南観音の三菱造船所（爆心地から3km）で被爆しました。その体験を「ピカッと光り顔を上げた途端、ドンと爆風が来てみんな工場の外へ飛び出した。鉄骨を残して壁や窓ガラスが壊れ降りかかってきた。町のほうを眺めると白いキノコ雲が立ち上り、黒煙と赤い炎に包まれた。5時ごろ帰宅を許可され、血を流し火傷を負った無残な人々の姿を目にしなが、己斐・横川を通過して牛田の自宅をめざした。助けを求める声を耳にしなが通過してしまった。なぜ助けてあげなかったのか、今もその声が耳に残っている。」と語られました。

戦後、日本もマニラや南京を破壊したと知りました。キリスト教学校である西南学院で出会ったロジャー先生が「アメリカはひどいことをしました」と涙を流された姿に感激して牧師になり、「こうしてキリスト



は、双方をご自分において一人の新しい人に造り上げて平和を実現し、十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼされました。」（エフェソの信徒への手紙2章15～16節）とある、平和と和解の福音を伝えるために働いてこられました。

（宗教教育委員会）

## 中2チャレンジキャンプ

今年も中学2年生が、7月末にチャレンジキャンプを行いました。頼もしい高校生リーダーと共に芸北の豊かな自然の中で非日常を経験し、一回り大きく成長しました。

当日は天候にも恵まれ無事に登山や飯盒炊さんを行うことができました。今年は7月に雨がよく降ったため、カレー作りでは薪が湿ってなかなか火が付かずとても苦労していたグループもありました。2日目、このキャンプでの最大の目標である恐羅漢登山では、初めの急な斜面を見て不安を感

じながらも、リーダーと励まし合いながら一歩ずつ登り、全グループ無事に山頂に着くことができました。広島で一番高い山に登りきった達成感はとても大きかったようで、下山後の中2は安心した表情の中にもあきらめずにチャレンジし、やり遂げたという自信がついた様子でした。そして、下山後から帰校までの様々な活動の中でも、たくましさや自主性、周りの人への気遣いなど、出発時に比べると明らかに成長した姿を目にする機会が増えていきました。

生徒の感想からは、このキャンプで非日常を体験し、困難にぶつかったことで、仲間間の存在の大きさを実感したこと、そして日ごろの生活への感謝、家族や親への感謝などを素直に表現していました。この成長をぜひこれからの学校生活に生かしてもらいたいと思います。

最後になりましたが、みんなで見えた満天の星空はとてもきれいで、忘れられない素敵な思い出となりました。2学期からの学校生活でもたくさんの行事があるので、良い思い出を作ってもらいたいと願っています。

（チャレンジキャンプ委員会）



## 夏期海外生活体験学習

7月25日（月）～8月10日（水）まで中3生徒16名は、オーストラリア・メルボルン郊外に位置するキルビントングラマースクールでのホームステイ研修に参加しました。

到着した当初は英語しか通じない環境や生活習慣の違いに戸惑っていましたが、徐々に発言や質問をすすんでできるようになりました。また、日本語や体育、芸術など様々な授業に参加させていただき、グループやペアでの活動をしながら現地の生徒達と交流しました。

8月5日には”Peace Day”として、広島や平和に関するプレゼンテーションを行いました。生徒達は日本で準備してきたパワーポイントを見せながら、原爆や広島の後

興、女学院での平和活動、最近の原爆観について英語で説明をしました。キルビントン生達はとても真剣に聞いてくださいました。その後、ともに黙とうを捧げ、平和を祈りながら折鶴を折りました。

2週間というわずかな時間でしたが、生徒達は英語力の向上もさることながら、自らすすんで行動することの大切さ、異文化におけるコミュニケーションの取り方など、研修を通してたくさんのことを学びました。



(グローバル教育推進部)

## Peace Forum

8月6日(土)・7日(日)の2日間に渡り、本校主催で Peace Forum を実施しました。このプログラムは今年で8回目となりますが、当初はハワイのプナホウ高校との交流を目的に、小規模でスタートしたものです。今年は、本校生徒40余名に、プナホウ高校(ハワイ)、沖縄尚学高校、関西創価高校、武田高校(東広島)、盈進高校(福山)から60名以上が参加し、参加者は100名を超える大規模なものとなりました。

6日は平和記念礼拝に始まり、その後は中東諸国から集まった先生方との交流会を持ちました。女学院生は日ごろの平和・国際貢献の活動について英語でプレゼンテーションを行いました。

7日は、NPT(核拡散防止条約)が抱える問題点とその解決案について、各校が準備してきたプレゼンテーションを行い、ゲストスピーカーである土岐雅子氏(ミドルベリー国際大学院モントレー校)および荊尾遙氏(広島県平和推進アドバイザー、

本校卒業生)から講評をいただきました。これらを踏まえて、午後からはグループに分かれ、午前中の発表で提示された案を深めてよりよいものにするため、生徒主導でディスカッションを行いました。司会、最終プレゼン作成、タイムキーピングなど、すべて生徒が行いました。

今回のNPTというテーマは高校生にとっては非常に難しいものであり、議論を深めるのは困難を極めたようです。中には、まったく合意に至らなかったグループもありましたが、最終的にはゲストの方々から、「このような議論において合意に至らないことは稀ではない。その難しさがわかっただけでも収穫があったと言える。これからも新情報にアンテナを張り、世界中でどのような出来事が起こっているかを常に意識してほしい。」との温かい励ましの言葉をいただきました。実施にあたり多くの準備を要しました。準備にあたってくれた生徒のみなさん、本当にお疲れ様でした。

(グローバル教育推進部)

## 東北研修

8月8日(月)～10日(水)に行われた、ハイスクール世界サミットin福島に高1生徒2名と高2生徒3名の計5名で参加しました。このサミットには東北の高校生を中心に東北以外の全国の高校生、海外の高校生が集まりました。初日は東日本大震災から5年が経過した被災地域を見学し、被災者の方からお話を聞きました。現地で見られる被害の爪痕に生徒たちは言葉を失っていました。2日目からは大学生のファシリテーターを中心にグループに分かれ、防災・減災に向けた社会基盤のあり方や、地域の防災力向上に向けた人材のあり方などについてグループごとにディスカッションを重ねていきました。はじめは自分の意見を言えなかった生徒たちですが、時間が経つにつれ積極的に発言できるようになりました。最終日にはグループごとに意見発表を行いました。他校の高校生から多くの刺

激を受け、福島で学ぶことで生徒たちは大きく成長することができたと思います。

(グローバル教育推進部)

## 署名実行委員会の夏の活動

7月31日(日)に「核廃絶! 広島・中高生による署名キャンペーン」の結団式を行いました。結団式では、広島平和文化センターや平和首長会議・広島市市民局平和推進課のご協力をいただき、松井一實広島市長、岩崎静二広島平和文化センター常務理事、湊晶子院長に激励のお言葉をいただき、夏の署名活動を始めました。署名活動は、7月30日・31日、8月2日・4日・5日に、元安橋・原爆ドーム周辺・本通りパルク前・八丁堀福屋前で行い、本校生徒をはじめ、市内からは修道高校・ノートルダム清心高校・広島学院高校・広島皆実高校・広島文教女子大学附属高校・崇徳高校、県内からは盈進中高・広島大学附属福山高校、県外からは沖縄尚学高校・おかやま山陽中高・神戸国際大学附属高校・平安女学院中高・プール学院高校・松蔭中高、ハワイからプナホウ高校が参加し、累計で約590名の中高生が参加してくれました。多くの方のご協力をご感謝します。

交流会では、7月20日(水)に広島学習で来校した女子学院の高校1年生のうち、15名が本校に来校し平和について互いに話し合い、交流を深めました。また、8月8日(月)～8月9日(火)には「平和とは? 中高生がその実現のために明日から何ができる?」を主題として神戸女学院・金城学院・広島女学院の交流会を行いました。1日目には開会礼拝後、神戸女学院高校の生徒がファシリテーターをつとめてワークショップ「私とあなたを隔てるもの」を行い、広島女学院高校からは平和クイズと「署名実行委員会の活動について」のプレゼンテーションを、金城学院高校からは「WE 私たちだからできること」という題でプレゼンテーションを行って、その後デ

ィスカッションを行いました。2日目は、平和公園で慰霊碑めぐり、原爆ドーム前と元安橋で街頭署名活動を行い、広島平和記念資料館の見学を行って閉会となりました。キリスト教主義で女子教育を大切にしてきた3校は、姉妹が集まったようで、互いによく理解しあえるものを持ちながら、各校の特徴をいかしながら、平和について考えることができました。今年初めての試みでしたが、実りのある交流会となりました。

その他、8月6日には朝から原爆死没者慰霊式、並びに平和記念式典に参加し、夕方からはマツダスタジアムで行われた「継承」をテーマとしたピースナイター(広島・巨人戦)の大型ヴィジョンで、署名活動とヒロシマ・アーカイブについて紹介されました。また、8月23日(火)には、首都大学東京から大学院生の田村賢哉さんの指導を受けて、11月に工学院大学附属中学の広島研修旅行で行うヒロシマ・アーカイブを使ったフィールドワークに向けて、研修プログラム開発のワークショップを行いました。忙しいながらも多くのことを学んだ夏休みとなりました。

(署名実行委員会)

## 夏の碑めぐり

今年も碑巡りボランティアが活躍してくれました。案内校は6校で、東京の香蘭女学校、玉川聖学院、群馬の共愛学園、新潟の敬和学園、大阪YMCA国際専門学校、関西創価でした。

厳しい暑さのなか、体調を整えて頑張ってくれました。自分の意見を織り交ぜながらの慰霊碑案内はどの学校からも非常に評価が高く、これからも自分の心と言葉で案内に厚みをもたせてほしいと思います。今後は9月の啓明学院、冬のフェリス女学院と続きます。まだやったことがない人はぜひ参加してみてくださいね。次回募集はフェリス女学院の予定です!!

(碑巡り担当)

## 保健室だより (5)

～休息を上手にとりましょう。～

夏休みも終わり、朝夕は涼しくなってきました。

季節の変わり目は、結構、身体の調子がくずれやすいものです。

遠足、文化祭など何かと行事の多い2学期です。

いつもより意識して体調を整えるよう心掛けましょう。

なお、夏休み中等に学校管理下で事故やけがにあった人は、担当の先生（授業中：その授業の先生、部活中：部活の顧問、登下校中：担任）に自分で申し出て事故届を書いてもらい、その後、受診した場合には、学校安全会に提出する書類を保健室までとりにきてください。毎月7日頃、受診した病院に書いていただいた書類とともに申請しています。（災害の給付範囲は、学校の管理下の事由によるもので療養に要する費用の額が5,000円以上のもの。その際のタクシー代等は給付されません。）

今学期も学校生活と家庭生活のバランスをうまくとりながら疲れたら無理しないで早めに休むなど工夫していきたいものです。  
(保健室)

## 心の健康 (5)

10月は気候がいいので、学校でも町内でも行事が多くなります。行事に参加すると、どうしても他の人に気を使い、人間関係のことで頭がいっぱいになります。人との交流は喜びを感じ、やる気が出てきます。また、充実感や満足感も得ます。ただそれだけではなく、とても疲れます。心も体も疲れます。

活動の後は休息を。外の世界に心を向け行動した後は、静かに自分の内面に向かい合ひましょう。

子どもはいろんな姿で疲れを示し回復しようとしています。寝てばかりいたり、喋りま

くったり、不規則な生活をしたり、と。大人は慌てないで、バランスの視点を持つことで状況を理解していきましょう。

(カウンセラー)



## 生徒の活躍

《中学》

◇中学卓球部

\*第64回広島市中学校総合体育大会  
(中・南区大会)

**団体**：A・Bチーム共に1位

**個人**：11名が市大会に進出  
2名がベスト4入賞

◇中学新体操部

\*第64回広島市中学校総合体育大会

**団体**：Aチーム 1位 ⇒県総体出場  
Bチーム 3位

◇中学ソフトテニス部

\*第64回広島市中学校総合体育大会  
(安芸・中ブロック大会)

**団体**：3位

◇中学放送部

\*第33回NHK杯全国大会  
朗読部門

N・H(3-2) 優良賞

◇中学合唱部

\*第83回NHK全国学校音楽コンクール  
広島県コンクール 中学校の部 銀賞

\*第55回広島県合唱コンクール 金賞  
⇒中国大会へ進出

◇個人の活躍

\*広島県中学校水泳競技選手権大会  
N・R(3-3)

200m 個人メドレー 6位

K・Y(1-1)

400m 自由形 5位

\*広島市中学校総合体育大会

水泳競技の部

N・R (3-3)

200m 背泳ぎ 3位

200m 個人メドレー 6位

K・Y (1-1)

400m 自由形 3位

200m バタフライ 3位

G・R (2-5)

50m・100m 自由形

⇒以上3名、県総体への出場権獲得

\*広島県中学校総合体育大会

水泳競技の部

K・Y (1-1)

400 自由形 4位

200m バタフライ 7位

《高校》

◇高校卓球部

\*広島市高校卓球選手権

団体：3位

個人：ダブルス

S・M (2-E)

K・R (1-D) 5位

◇高校新体操部

\*広島地区高等学校秋季新体操競技大会

個人：二部種目別リボン

I・H (2-C) 2位

◇高校水泳部

\*広島地区秋季水泳競技大会 (新人戦)

総合成績 女子8位

Y・C (2-A)

100m 背泳ぎ 4位

200m 背泳ぎ 7位

T・M (1-A)

400m 個人メドレー 1位

200m 個人メドレー 1位

◇高校音楽部

\*第83回NHK全国学校音楽コンクール

広島県コンクール 銀賞

\*第55回広島県合唱コンクール 金賞

◇個人の活躍

\*平成28年度メイプル賞受賞

N・Y (1-E)

表彰理由：第39回ヒ・ティ・ヒ・アノコンペティション

全国大会決勝

連弾上級 金賞

《中高》

◇中高吹奏楽部

\*第57回広島県吹奏楽コンクール

高等学校A部門 金賞

◇個人の活躍

\*広島県中高生ドローイング大賞展

S・S (3-1) 奨励賞

N・Y (1-1) 奨励賞

M・T (1-D) 入選

F・Y (3-1) 入選

S・Y (3-4) 入選

I・R (2-2) 入選

N・E (2-5) 入選

教職員の動向

○2名の教員の方々が退職されました。本  
当にありがとうございました。今後のご  
活躍をお祈りいたします。

加川 貴美子 (養護) 在職 2年5ヵ月  
佐藤 紫帆 (地公/非常勤講師) 在職 5ヵ月

○英語科の前瑛子先生が8月16日より産休  
に入られました。

○9月より新任の木坂祥希先生 (非常勤講  
師) に中2・3の地公を担当していただ  
くことになりました。

○美術科の田畑あゆみ先生が8月23日に結  
婚されました。おめでとうございます。  
新家庭の上に神様の豊かな祝福がありま  
すようにお祈りいたします。

10月行事予定

今月の聖句

わたしは、戦いを立派に戦い抜き、決められた道を走りとおし、信仰を守り抜きました。

(テモテへの手紙二 4章7節)

女学院の創立者、砂本貞吉先生の墓標には、この聖句の文語訳「善き戦闘を闘い、走るべき道程を果たし、信仰を守れり」が刻まれています。1856年広島に生まれ、2歳で鎖国の終わり、13歳で明治維新、17歳でキリスト教禁教の終わりを経験、そのような時代にアメリカに渡り、キリスト教に入信し、広島の地にキリスト教に基づいた女子教育機関を創設するというのは想像を絶するチャレンジだったことでしょう。

激動の時代の中であって、変わるのではない真理を見つめ、“ぶれない生き方”を貫いた創立者の生き方から、創立130周年にあたって改めて学ぶものがあるのではないのでしょうか。

(聖書科 T. M)



1	土	45分授業 1限8:40～ 創立記念特別礼拝 保護者対象入試説明会
2	日	高1駿台全国模試(希望者) 私学フェスタ(広島)
3	月	
4	火	1～3限土曜授業 高2修学旅行
5	水	中3研修旅行
6	木	
7	金	中1バイブルデイキャンプ 中2,高1・3遠足
8	土	高3ベネッセ駿台記述模試 英語検定(学校実施)
9	日	英語検定(本会場実施)
10	月	体育の日 高3河合マーク模試(希望者)
11	火	7限高1PTS(選択科目)
12	水	
13	木	
14	金	
15	土	4限高2PTS(選択科目) 保護者対象入試説明会
16	日	
17	月	
18	火	木曜授業 1限8:55～ 中間テスト(高2・3)
19	水	(中1・2・3,高1) 1限:8:55～ 15分休憩
20	木	1限:8:55～ 15分休憩
21	金	1限:8:55～ 15分休憩
22	土	
23	日	
24	月	
25	火	
26	水	
27	木	
28	金	
29	土	
30	日	
31	月	中間テスト素点確認 高1・2進研模試(5限まで) 6限 高1・2LHR (高)6限で終了 高3ベネッセ駿台マーク模試(全日) 中 1～4限 学力推移調査 5～6限 授業